

日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会主催

第15回思春期医学臨床講習会 報告書

開催日時：2021年11月23日（火・祝）10：00～16：25

開催場所：ハーネル仙台

（所在地）仙台市青葉区本町2-12-7

参加費：医師5,000円，非医師3,000円

参加者数：29名

第15回思春期医学臨床講習会に参加された29名の受講者の内訳は28名が小児科医，1名が心理職であった。医師受講者の年代は20～30代が23%，40代が19%，50代が15%，60代が39%で，初回参加者は74%であった。開催場所に関しては9割以上の方から適切であるとの回答を得た。

今回の講習会テーマは“長期に続いているコロナ禍が思春期の心身の健康にもたらす影響を知り対応を考える”をテーマに自殺，摂食障害，メンタルヘルス，虐待，不登校，の5つのテーマを選び，各領域の専門家に講義を行っていただいた。「思春期の自殺と対応」では，児童精神科医の松本英夫先生が，10代で増加している自殺の現状を解説。また，もし，自殺しようとする患者を診療したときの対応について教えていただいた。「10代で増え続ける摂食障害の特徴と対応」では，作田が，コロナ禍で特に増えている10代の摂食障害の現状，神経性やせ症以外のタイプの増加について概説し対応を説明した。「コロナ禍を機に再考する子どもの権利とメンタルヘルス」では，田中恭子先生に国立成育医療研究センターのコロナ禍でのアンケート調査の内容を供覧し概説いただいた。「コロナ禍の子ども虐待の現状と対策」では，奥山真紀子先生がコロナ禍における現状を概説された。災害の子どもへの影響を例に，コロナ禍での対応をご教示いただいた。「不登校・引きこもりのリカバリー論」では，松浦直己先生が，小学校校長という立場から現状を報告された。今回の研修では，すべての講義に共通の「コロナ禍での思春期の子どもの健康も守る」ための理解を進め，日常診療で活用できる対応を学ぶことができたと考える。

参加者からのアンケートでは，本講習会は小児科学会ホームページから知ったが最も多かった。講演のテーマ，内容等に関しては，ほとんどがとても興味深かったと高い評価を得た。これまで講習会に参加したことのなかったものが74%，今後も参加したいが80%以上であり，繰り返し参加されることが期待された。意見として，スライド資料の文字が小さくて読みづらい，休憩時間が短い等の指摘があり改善すべきと考えられた。今後取り上げて欲しいテーマとして，ゲーム依存・ネット障害，不定愁訴・OD，思春期の子どもを持つ親への対応，不登校，トラウマ処理，学校の心理，ソーシャルスキルトレーニングなど様々な要望があった。

今後当講習会での課題として検討を願いたい。

文責 作田亮一